



「明王の禿」を望む



マキノまちづくり協議会が発足したのは令和3年11月でした。それから4年余り「地域と行政の橋渡しをする」とともに、「地域からのまちづくりを進める」という目的を念頭に、試行錯誤を繰り返しながらここまで来ました。振り返ってみれば、当初の思いと現実とのギャップに戸惑い、協議会としての足元がなかなかしっかりと築けないもどかしさを感じていました。

しかしながら、一方では子ども達や彼らを育てる保護者の方にマキノのすばらしさを知ってもらえたり、災害に対する備えと一緒に考えていたり、更に、区や自治会の困りごと解決を支援したりと、一定の成果も見え始めてきました。

これからの協議会に必要なものは、一緒に考え、行動していただける方々の存在であり、一人でも多くの方にこの協議会の意義を知っていただくことです。

今こそ住民の皆さん一人ひとりが、この町の将来を自分のこととして捉えて、まちづくりを進める時だと思います。ハードルは決して高くはありません。出来ることから、ちょっとした一歩を私たちと一緒に踏み出してみませんか。

マキノまちづくり協議会 会長 谷口浩志

マキノまち協・みんなで会議 開催のご案内 ～ 思っていること・考えていることを言葉にして 語り合いましょう～

マキノのまちづくりについて、情報を 共有・共感 する場として「マキノまち協・みんなで会議」を開催しています。マキノまちづくり協議会は 準備会を経て 令和4年に始動し現在に至っています。

住民自治という重い題目をいただいたのスタートは茨道（いばらみち）でした。地域社会の中には既に「まちづくり」や「コミュニティ」などをテーマにした団体や組織が多くあり、その真ただ中に放り出されたような状態でした。住民自治とは？ 地域課題とは？ 誰が担うの？ 誰が解決するの？ と…。

1年2年3年と…、未だに答えや解決策を言葉にできるほどの手ごたえはありませんが 共感・共有 できる繋がりや深まり拡散しつつあります、あと10年はかかるかなあ…実感です。

今、思っていること・考えていることを言葉にして語り合ってみませんか？

「まち協・みんなで会議」の日程については令和8年2月下旬～3月中旬を予定しています。日程等は只今調整中ですので詳細が決まりましたらチラシ等でお知らせします。今後も人々が集い語り合う機会を設けていきたいと思っています。♡皆さんの参加をお待ちしています♡

「まち協」会員募集中！！

マキノまちづくり協議会（まち協）では、マキノをいつまでも住み続けられる場としていくことを目的に、多様な団体や個人が地域の課題を検証し、協力し合いながら支援をすることを目指しています。まち協では、

- ◆ 安心して暮らせる「防災・防犯」
- ◆ 「子ども・若者の支援」による地域人材の育成
- ◆ いつまでも住み続けるための「生活支援」

を活動の基本方針として活動してきましたが、更なる前進のために皆さんの参加・参画を強く願っています。ご協力をお願いします。

課題山積の地域社会ではありますが、共に手を携え、腕を組んで未来に向かって一歩ずつ確実な歩みを進めましょう。

今年度も残すところ3ヶ月足らずですが、今後の活動については「まち協だより」や募集チラシ、公式ライン等でもご紹介・ご案内していきたいと考えていますのでよろしく願います。

発行月 令和8年1月
発行 マキノまちづくり協議会
電話番号 090-2115-9137
住所 高島市マキノ町蛭口260-1
マキノ土に学ぶ里研修センター内

令和7年度 第2号

マキノまち協だよりは、住民の皆さんとマキノまちづくり協議会と一緒に活動をする拡げていくことを目的として発行しています。

マキノまちづくり協議会が発足したのは令和3年11月でした。それから4年余り「地域と行政の橋渡しをする」とともに、「地域からのまちづくりを進める」という目的を念頭に、試行錯誤を繰り返しながらここまで来ました。振り返ってみれば、当初の思いと現実とのギャップに戸惑い、協議会としての足元がなかなかしっかりと築けないもどかしさを感じていました。

しかしながら、一方では子ども達や彼らを育てる保護者の方にマキノのすばらしさを知ってもらえたり、災害に対する備えと一緒に考えていたり、更に、区や自治会の困りごと解決を支援したりと、一定の成果も見え始めてきました。

これからの協議会に必要なものは、一緒に考え、行動していただける方々の存在であり、一人でも多くの方にこの協議会の意義を知っていただくことです。

マキノまちづくり協議会 会長 谷口浩志

愛郷マキノの風景「明王の禿」を望む

私たちの住んでいるマキノ町は自然に恵まれ、冬は写真のような雪を頂いた光景が見えます。この山は正式には「野坂山地」と言いますが「赤坂山」といえば皆さんもご存知の山です。写真の右手に白く雪が写っているところが「明王の禿（みょうおうのはげ）」です。

花崗岩質で出来ており岩が風化してガレ場となり、奇岩がモアイ像のように見え、頂上付近では水晶が取れ、マキノの小・中学生の遠足の人気場所です。

※写真とコメントは歴史や自然を含む観光ボランティアガイドとして活動されている川添宏司さんから提供していただいたものです。

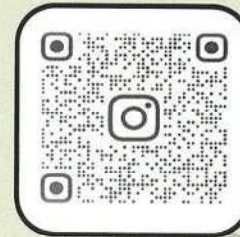
今回の「まち協だより」では令和7年度の活動に参加・ご協力いただいた皆さんの感想やお声を紹介しています。

- ・「先進地視察研修」に参加いただいたマキノ赤十字奉仕団の古川真美さん
- ・「防犯看板製作」にご協力いただいた海津一区・二区子ども会の中明糸織さん
- ・「除雪機操作講習会」に参加いただいた海津二区の江端英嗣さん

「ニジマスつかみと炭火焼&防災体験」と「マキノ中学校トークフォークダンス」について協議会事業部 青谷 藤代一さん
協議会事業部 吉川 美紀さん
(詳しくは次ページをご覧ください)



公式 LINE



Instagram

公式LINE や Instagram の登録をお願いします。



マキノまちづくり協議会 個人会員申込

入会員名	
住所	
電話番号	
メール	
マキノとの関わり	在住・勤務・その他

※ マキノまちづくり協議会に入会希望の方は記入後、土に学ぶ里研修センターまで提出してください。

～ マキノ中学校 「トークフォークダンス」 に参加して ～

11月12日（水）マキノ中学校において「トークフォークダンス」が開催されました。まちづくり協議会でも、多くの皆さんに参加していただけるよう声かけの協力をさせていただきました。

当日は90名ほどの皆さんが参加して下さり、ファシリテーターの進行のもと、普段話す機会が少ない中学生と楽しみながらトークで交流ができました。

当日は、私も参加させていただきましたが、中学生の素直な意見が聞けて嬉しくなり、しっかりとした考えを話してくれる姿に感動もしました。今回、協力・参加出来て本当に良かったです。

このような機会を企画して下さったマキノ中学校の先生方に感謝申し上げます。今後も、色々な世代の方が交流できる機会を作れたら良いと思っています。

マキノまちづくり協議会 事業部 吉川 美紀



「トークフォークダンス」の様子

～ 3回目の「ニジマスつかみ体験」を終えて ～



「ニジマスつかみ体験」の様子

マキノ高原では、毎年、都会の小学校から体験学習として多くの子どもたちがやってきます。1泊2日の工程でマキノの自然の中での体験は何年経っても鮮明な思い出となるそうです。その体験のひとつである「ニジマスつかみ」をマキノの子どもたちにも体験してもらえたらという思いから始めました。

当初は、自分たちで色々な体験をしてほしいとの思いで、スタッフは見守ることに徹し、危険な時だけ声をかけることから始めました。

あまり触ったことがない魚に口から竹串を押し込み、塩をふりかけて自分で焼く。すべてが初体験でした。

3回目となる今年の体験、スタッフの助言やアドバイスがない中で体験している子どもたちの中に指導者が現れました。更に、スタッフには日頃の体験から串刺しの上手な人がおり、手さばきの良さに保護者も串刺しのコツを学ぼうと多くの方との会話も弾んでいました。

今年度は、新たに新たに防災目線の体験として、ニジマスを焼いた後の火の始末について、地元の消防団（マキノ第2分団）の皆さんのご協力のもと斧研川（よきときがわ）からの水の汲み上げ、バケツリレースタイルで競い楽しみながら水を運んで消火、「防災体験」完了しました。

何時の日にかここにいる子どもたちが大人になり、親となった時に今日の体験を懐かしく思い出してくれたらよいなぁと…と思っています。

マキノまちづくり協議会 事業部 青谷 藤代一



「防災体験・バケツリレー」の様子



「啓発看板」の製作に当たって、子どもたちと話し合い、少しでも自分たちの住む地域を大切に思い、目を向けられるようにとの願いを込めて次のふたつの看板のテーマを決めました。

「あいさつは誰にでも出来るよ安全確認」

地域では高齢化が進み、コロナ以降出会う機会も少なくなりさみしい限りです。子どもたちの数も少ないのですが、地域内で出会った時に誰にでも気軽に「おはようございます」「こんにちは」「お元気ですか」など、ひと声かけることで気持ちが明るくなると共に、地域の人々の安全も確認できるのでは、という思いです。

「見ているぞ、地域のカメラとみんなの目」

地域に防犯カメラが設置されたことで、不審者の通行や徘徊者等の早期発見につながるのではと思い、「カメラの目、地域の人々の目は大切な見守り活動」につながってほしいという願いを込めました。

海津一区・二区 子ども会 代表 中明 糸織



「防犯啓発看板」

「先進地研修」に参加しました！

マキノまちづくり協議会協議会の団体会員として赤十字奉仕団にもご案内をいただいて、大阪府堺市総合防災センターで貴重な体験をさせていただきました。

普段の活動では災害時の炊き出し等の訓練が主で、災害に対する体験は少ないというのが現状です。

堺市総合防災センターは施設も新しく、広大な敷地に体験設備も充実しており、まず、映像による災害学習に始まり、続いて各種体験ブースを回りました。

地震体験のブースでは、過去に発生した地震の再現、体感の研修をうけ、恐ろしい思いを実感しました。

今回の研修を受け、このような機会があれば私たち赤十字奉仕団の団員にも案内し、体験を通じて広く市民の皆様にもお伝えできるよう努めたいと思いました。

高島市マキノ赤十字奉仕団 委員長 古川 真美



「火消し体験」の様子

『備えあれば憂いなし』

最近の異常気象を考えると冬はどうなるのかが心配事のひとつで、市役所マキノ支所に除雪機操作講習会をやってもらえないか相談したところ、マキノ支所で実施するのは難しいようでマキノまちづくり協議会を紹介してもらい、相談したのが10月に入っていたため、急ぎ、講師の手配等調整を図ってもらいました。

講師の手配や会場・日程調整も整い、折角なのでマキノ地域内の区・自治会等にも案内をしてもらいました。



「座学」の様子

海津二区でも希望者を募りましたが、残念ながら私の思いは叶わず、私自ら受講することになりました。他の区から7名の申し込みがあり、名で受講しました。

機械操作に不慣れな私ですが、座学・実技と無事に終了できました。特に実技では運転のほか各種操作レバーがあり、それぞれの動きに合わせる操作は苦戦しましたが体感として経験し、本番に備える自信になりました。

地域の高齢化が進み、若い人たちは勤めに出ておりと今後もいろいろと課題は残りますが、困りごとに対してまちづくり協議会が応援していただければ助かります。

海津二区 区長 江端 英嗣



「実技」の様子